

全国交流ウォーク 中山道 馬籠・妻籠宿を歩く

14都府県228名の参加で大成功！

全国ウォーキング
協議会ニュース



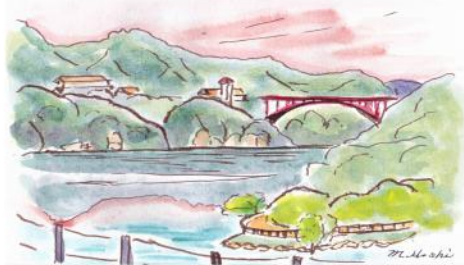
発行責任者
全国ウォーキング
協議会 松本和信
所在地
〒170-0013
東京都豊島区
東池袋2-39-2
大住ビル402
(03)3986-5401
E-mail: njsf-walk
@tt.main.jp
http://njsf-walk.
main.jp/
編集長:加藤尚美
編集:協議会
ニュース編集委員会

2019年全国交流ウォーキング中山道ウォークにご参加有難うございました。それぞれのコースとも距離は違いますが、新緑や昔の宿場町の風情や情緒、道端に咲く名も無き花に心癒されたことと思います。昔の旅人ができた歩くことのできる道は、無事に終えたことが出来たことに、参加された皆さんがそれぞれの役割を果たして運営をした成果だと思います。今回の中山道ウォークの時期を決めるにあたり、東海のメンバーは秋に歩いたこともあって、新緑の5月と決定しました。その準備期間

成功の秘訣は、 役割分担

が短くて東海全体の下見は1回しかできなかったのが、前回のよう静岡は事務局愛知は会計、三重はウォーキングリーダーの任務を分担して準備をしました。25日の前夜祭は14都府県225名の参加でした。千葉の日野さん達2名の開幕太鼓でオープニング、乾杯会食となり、参加者からは椅子席が大愛好評でした。宴会場では、26日のウォーキングの参考にと「妻籠を愛する会」の藤原さんの中山道の貴重なお話や、妻籠宿保存に至る経過などの資料を用意していただきました。

全国交流ウォーキング
中山道実行委員長
松本和信



ホテルの遊歩道から見た
早朝の恵那峡
イラスト 星操

その後は、恒例のクラブ紹介です。年齢は違えど一年に一度の同窓会交流の輪が出来て会場は大いに盛り上がりました。26日は真夏日の予報が出る良いお天気でした。当日参加の3名を加え228名となり、馬籠から妻籠まで歩く9キロコースは7グループ。馬籠を散策した後、馬籠峠までの登りをバス移動する6キロコースは4グループ。そして足腰が弱い方や体力に自信がないが全国の仲間と一緒に歩きたいとい

北海道便り
クラブ結成から8年、野幌原始林の平日例会を中心に活動を続けています。初夏の野草観察と小鳥たちのサエズリを聞きながらのウォーキングから、真冬に雪の綿帽子を被った静かな原始林ウォークまで、四季の変化を楽しんでいます。歩いていて近くまで寄ってくる小鳥たちの歓迎は嬉しいものです。エゾフクロウが樹上で休んでいる姿を見ると、天からの贈り物を頂いた様な気持ちになります。野幌原始林はオサムシやシデムシの歩行昆虫や沢山のチョウが飛び、アカゲラや天然記念物のクマガエラ、ドラミングも聞こえ、樹上をエゾリスが走り回る自然豊かな公園です。クラブは気軽に参加できるウォーキングを掲げて、野幌原始林から大雪山旭岳のバス例会まで、歩くの楽しみを広げながら例会を行っています。今年もクラブは冬も眠らずに歩き続けます。



ニセコ白樺山 エッセンティイカ
北海道ウォーキングクラブ
馬崎徳明

木曾路を歩いてみて・・・



木曾路はやっぱり山の中だった。「木曾路は、すべて山の中である・・・」島崎藤村の小説「夜明け前」の書き出しである。新緑に抱かれた小説の舞台での全国ウォーキングに岩手・盛岡から10名が参加した。私たちは、9キロを歩く「お元気コース」馬籠～馬籠峠～雄滝・女滝～大妻籠～妻籠宿に挑戦した。木曾路は、石畳あり、野の花あり、せせらぐ溪流と滝あり、古民家ありで木立の中は涼しかった。まさに山の中だった。道中、山間の路端にひっそりとたたずむ「牛頭観音」を見つけた。「馬頭じゃなく、牛頭？」牛頭観音はみんな初めての出会いだった。「一人では来れない木曾路、仲間たちがいたからこそ足を運べた」とウォーキングクラブならではの話しにみんな納得。だれ一人くたびれることなく笑顔で帰盛し満喫したウォーキングとなった。来年の全国ウォークは関東圏とか、楽しみだ。



盛岡ウォーキングクラブ 工藤和雄

兼ねてより参勤交代がテーマのTVドラマなどで中山道の存在が耳の片隅にあったので、今回の全国ウォークにはワクワクの私でした。前夜祭の賑やかなこと！実に大人数。あしがる会も昨年10月に全国のみなさんを松島ウォークにお迎えした経験から、実行委員の方たちの苦勞がしのばれました。“妻籠を愛する会”の方の講演では、歴史的な美しい町並みの保存に、長年の並々ならぬ努力が傾けられていたことを知り厳粛な思いをしました。男滝女滝では、マイナスイオン？を浴びて清々しく妻籠宿に到着。ばんざーい。朴の葉に包まれたお弁当は健康的でおいしかった！



あしがる会 藤沢和子

8名でレンタカーにて参加。1日目は、午後から南木曾町の桃介橋～柿其溪谷を散策しました。柿其溪谷は、つり橋を渡ると、上流に迫力のある牛の滝があり、その溪谷は美しいコバルト色で、一同大変感激しました。夜の全国ウォーク交流会では、テクテククラブは、全員青色の反核ウォークで使っているTシャツを着て「琵琶湖就航のうた」を披露し、会場を盛り上げました。2日目の朝は、小嶋三千子さんが、例会参加150回となり記念バッジで表彰。テレビでは、「今日は岐阜も30度を超える暑さで熱中症対策をしっかりと」との情報が有り、帽子プラス日傘で歩こうと提案、これは良かったです。馬籠から妻籠までの中山道ウォークは、リーダーの方の名ガイドで、季節の花や植物を丁寧に教えて頂き、新緑の中を気持ちよくウォーキングしました。



びわこテクテククラブ 星 操

新緑あざやかな、天気も微笑んだ日となり、17名で参加。18:00からの前夜祭では、総勢225名ほどの参加。始めに和太鼓の歓迎。各クラブ紹介では、「大阪うまいもの唄」を披露。26日もいい天気で大阪はBコース。案内して下さった和泉さん・岡本さん良かったよ！皆の歩調を合わせて下さり、「男滝、女滝」では汗ばんでいた体にすっーとマイナスイオンが感じられ、これが山の醍醐味やな…と思いました。美味しいお茶も頂き、足の疲れも何のそのでゴールしました。2日間お世話して下さいました方々にお礼申し上げます。運転手の綿貫さん、安全走行ありがとうございました。



大阪ウォーキングクラブ 生西敏子

12人がマイクロで出発。城端で富山の仲間が便乗し、途中、郡上市を散策しました。夕食交流会では、クラブの営業部長？の発言をめぐって、侃々諤々の話し合いが深夜まで続きました。参加者の声は、「昔の人もこの景色を見て歩いたのか…。苦勞が偲ばれます」「ネーミングに魅かれて参加。今も生活しながら、この景観を守っていることはすごいこと」「体力的に不安でしたが、みんなとお喋りして完歩。達成感があります」「草鞋でこの街道を通った先人たちに思いを寄せました」「軒先に電動車いす2台。日常生活上不便だと思うが、住み慣れた高齢者の楽しみもあるはず…と想像した」「あしがる会の方と相部屋になり、東北大地震のその後のことも聞けて良かった」「お弁当も美味しかった」と好評でした。1人がクラブに入会しました。



いしかわウォーキングクラブ 藤田克彦

中山道おしゃべりウォーク風薫り

「全国交流ウォークin中山道」を成功させた東海ブロックのみなさん、ありがとうございます。東京からの参加者はクラブ員9名、スキー関係者3名、水泳関係者9名、一般1名の総勢22名です。

「訪れたかった木曾路なのでとても楽しめた」「お弁当が豪華でとても美味しかった」と好評です。一方Aコース参加者からは「男滝・女滝を観たかったのに!」という声や「足元に気を取られて街道沿いの街並みを見る余裕がなかった」という感想も出ました。Bコース参加者からは「いたわりあいながら楽しく歩きました。きつい所は“ゆっくり歩こう”を合言葉にみなさんについて歩きました」との感想。運営については「200人以上の参加者を整然と運営できるのはすごいね」との驚きの声も。
◆参加者の田畑さんの短歌集「木曾・伊那路を旅して23首」から抜粋



「歩く友二百余人集まりて 宴(うたげ)楽しく笑みこぼれおり」「中山道おしゃべりウォーク風薫りオダマキ揺れて鶯の声」
東京ウォーキングクラブ 青嶋繁太郎

毎年1回一泊遠出企画を行い楽しんでいきます。今年も全国交流ウォークのホスト役でもある為、例年のように自分達だけで気楽に楽しむわけにはいかない一泊遠出になりました。25日は、柿其溪谷の牛が滝コースを散策後、中山道の迂回路・与川道を根の上峠から三留野宿まで約11キロを歩きました。26日の全国交流ウォークでは、三重は馬籠宿から妻籠宿まで歩くAグループの5グループ、馬籠峠から妻籠宿まで歩くBグループの1グループの案内役を引き受けました。リーダー、サブリーダーは、頑張ってくれましたが、三重からは遠く来辛い場所の為、下見回数も少なく不満足な案内になったのではと申し訳なく思っております。

三重ウォーキングクラブ 井岡大義

「木曾は全て山の中」正にその通り。木立ちが太陽を遮り気持ちの良い道が続きます。このコースは外国からの観光客が6割以上だそうです。一石茶屋、以前「木曾節」を披露してくれたおじさんは、オランダの観光PR誌に写真入りで紹介されていました。でも今回はおじさんがいませんでした(さんねーん、退職したそうです。)男滝女滝への分岐点に着きました。木曾路名物「ほおば味噌」の【ほおの木】の花も見ながら、程よい木陰混じりの下り坂で、ノンビリ歩けました。妻籠宿 12時40分
「もうお昼食べたよ。」ドベ(最後)到着の私たちもお弁当を受け取って解散。さてこれからが本領発揮かな?私たち3人は、南木曾から帰ったのでした。



愛知ウォーキングクラブ 岡本好子

千葉県からは男性4名、女性4名の8名で参加しました。馬籠宿、妻籠宿が当時のままきちんと保存してあることに感動。ここに住んでいらっしゃる方、そして地域の人たちの苦労をかみしめながら歩きました。実際に中山道歩くのは初めての経験。いつの間にか「この急な坂道を歩くのは大変だっただろうな」「皇女和宮はこんな急な道を江戸に向かったんだ」など当時の人たちの気持ちになって歩いていました。さすが方言が飛び交う全国交流のウォーキング。千葉勢は交流集会のオープニングの太鼓を担わせていただき楽しい交流会を過ごすことができました。



千葉県ウォーキング協議会 日野正生

以前から、是非行ってみたいと思っていた馬籠宿から妻籠宿への道のり、昔の旅人に思いを馳せながら、歩くことが出来ました。馬籠宿から坂を上った展望台からは、恵那山の姿も大きく見えました。観光地として歩きやすく整備され、茶屋でのお茶の接待もあり、趣の違う二つの宿場町の風情を感じながらの歩きとなりました。その他、思いがけず行きの車窓から、まだ雪の残る南アルプス、八ヶ岳、中央アルプスの稜線を楽しむことが出来ました。帰りの迂回路として通った河口湖から御殿場にかけての富士山の眺めもお得感満載で、皆さん歓声を上げて喜んでいました。実行委員の皆様がこの企画を実現できるよう、いろいろ準備をして下さった事、当日のお世話、本当にありがとうございました。



神奈川ウォーキングクラブ 栗田映子



今年のメモリアルピースウォークIN広島は魅力！

関東ブロック交流ウォーク

戦争遺跡・日吉台地下壕を見学して

悲劇の歴史を刻む施設

6月22日(土) 戦争遺跡の現場を体験できるまたとない機会として参加。見学者を3班に分け、10名の保存会の方々が詳細な説明を加えながら壕内と地上施設を案内してくださいました。中核施設であったのに文書や記録があまりに少ない

(意図的に焼却)中で、調査・発掘のご苦労には頭が下がる。神奈川は、太平洋に面し、東京を防衛する拠点として多くの軍事施設を抱えてきたが、日吉も抜群の立地条件で1944年3月から1年半、連合艦隊司令部が置かれた。すでに戦況は絶望的。頑健に守られた地下壕からの司令で大勢の兵士が亡くなった。「志願」による死の強要。人の心を狂信的にしてしまう戦争の怖さを思い知る。縄文時代から人が住み始め、高い文化を育んできた日吉地区、1934年には、キャンパス開設により学園都市になり広大な地下壕が掘られた。悲劇の歴史を刻む施設であったことを忘れてはならないと強く思い、平和について改めて考えた。

司令官官室。コテ跡もみあたらないほど立派に仕上げたコンクリート壁。主要壕には当時珍しい蛍光灯の使用も。

新横浜ウォーキングクラブ 福田恵子



スポーツの集い IN 広島

来てくれ・見てくれ・感じてくれ

皆さん、終戦74年、ポツダム宣言を受けていれば広島・長崎の原爆投下はなかった。戦後世代が国民の80%になった今日、戦争のことを正しく伝えていくことが、スポーツ平和とともにの私たちスポーツ連盟会員の務めです。8月6日は、恒例の広島城周回のピースマラソン、反核平和マラソン広島〜長崎へのピースランナー壮行会。そして今回は、「来てくれ・見てくれ・感じてくれ」の戦争時軍港の呉の町を歩きます。今回は会館を巡る旅になります。皆さんの参加をお待ちしています。

参加費500円。呉の大和ミュージアム(戦艦大和)ほか数か所を回ります。ピースウォーク推進大使 林口 秀司

この事実を忘れてはならない。

戦争末期、日吉での受信の中でも最も集中した沖縄戦や戦艦大和の出撃の指令。生死彷徨う日々の中、日吉地下壕の電信員の耳には、通常隊の操縦士が(ツウー)という無線を開きつづける。それはそれで行った痛恨の叫び。と生きて突っ込んで行くも若者が詰まってしまう。来てをしてみたい。書いても胸が詰まってしまう。今出来るのは、次世代に繋ぐのが我々の役目だと痛切に思います。

加藤尚美

「どんなことするのか見えてきたよ」と、クラブ結成の仲間たち



カンパウォーク

大好評！
海外ウォークのご案内
全国ウォーキング協議会主催

日時
2019年12月9日(月)～14日(土) 泊6日

費用
15万円

発着空港
成田、中部国際、関空、福岡

詳細は、同封のチラシをご覧ください

北の国に仲間広がる！

北海道で2つ目のクラブ釧根(せんこん)ウォーキングクラブが、中標津ミックススポーツクラブ傘下に誕生しました。

「元気に歩いて、長生きしよう」を合言葉に仲間を広げています。すでに会長さんは加藤弘二さんに決まり、8月末にクラブ結成総会を開催する予定です。

ひがし北海道はウォーキングの宝庫。野付半島春国袋、釧路湿原、納沙布岬など、絵のような景色が広がっています。

報告・吉越



会長の加藤弘二さん

編集後記



根室市春国袋原生 野鳥公園



「回転ずしは極旨！」「二階建て生ほたて」に感激

ら垣間見た気がする。歌五・七・五・七・七、短歌の中に言いたいことを詰め込む。難しいけど、あらためて面白いと思う。う言え、先日、95歳の男性と話していると「ワシの名前は、信三(しんぞう)。ワシは、なくてはならない人やねん」心臓と掛けたわけだが、素晴らしい柔らかい頭。感心した。戦争を乗り越えて生き抜いてきた人とは思えないくらい強いけど、ガンバロカ！

中塚久子